

平成25年5月23日

中央漁業指導所・水産試験場

環境調査結果のお知らせ

平成25年5月23日午前9時から野見湾・須崎湾の環境調査を行いましたので、結果をお知らせします。

概況

湾内の環境は、水温21～23℃、塩分32～34、溶存酸素濃度5～8mg/lでした。
透明度は4～5mで、有害種のカレニア・ミキモトイ、コクロディニウム・ポリクリコイデス等が確認されました。

水温と塩分(表1・2)

湾内の水温は21.0～23.0℃、塩分は31.7～33.8でした。前回調査時(H25.5.8)と比較して、水温は1℃上昇、塩分は同程度でした。

溶存酸素濃度(表3)

湾内の溶存酸素濃度は4.92～7.93mg/lで、前回より5m以深が1mg/l低下していました。

プランクトン(表4・5)

透明度はやや悪く、3.7～5.5mでした。
検鏡の結果、検鏡の結果、魚類に対して非常に有害なカレニア・ミキモトイが最高46cells/ml、コクロディニウム・ポリクリコイデスが最高20cells/ml確認されました。今後の動向に注意が必要です。
その他、有害種のヘテロシグマ・アカシオ、ディクチオカ・フィユラ、ケラチウム・フルカ等も確認されています。

海や養殖魚の状態に変化や不安を感じた時は、よく洗ったペットボトルに海水を汲む等して、中央漁業指導所か水産試験場まで連絡してください。

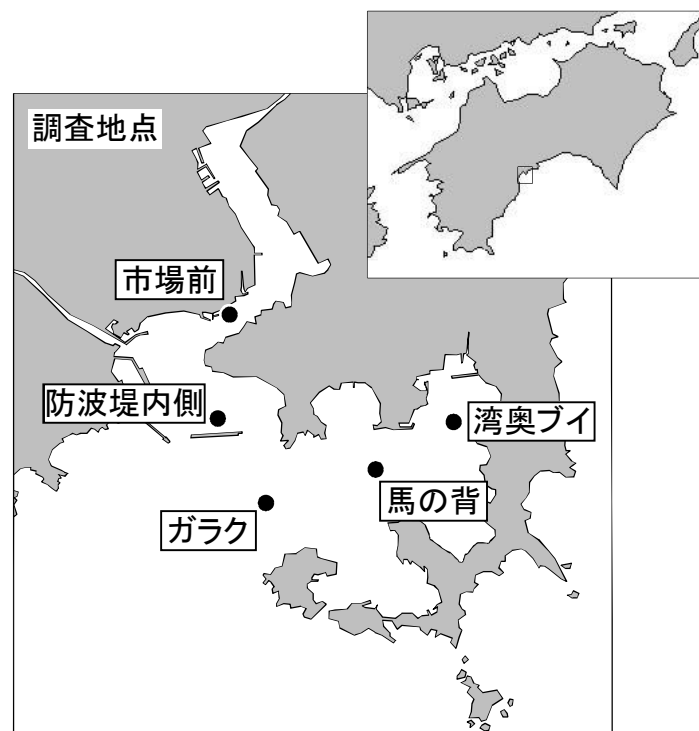


表1 水温(℃)

調査地点	湾奥ブイ	馬の背	ガラク	津波防波堤内側	漁場平均※	前回調査(H25.5.8)		市場前
						漁場平均※	前回との差 今回-前回	
0m	23.0	22.8	22.6	22.7	22.8	22.0	0.8	22.8
2m	22.9	22.7	22.5	22.6	22.7	21.9	0.8	22.6
5m	22.4	22.4	22.3	22.6	22.4	21.6	0.7	22.2
10m	22.2	22.2	22.2	22.1	22.2	21.6	0.6	-
B-1m	22.0	21.0	22.0	21.7	21.7	21.2	0.5	22.0

表2 塩分

調査地点	湾奥ブイ	馬の背	ガラク	津波防波堤内側	漁場平均※	前回調査(H25.5.8)		市場前
						漁場平均※	前回との差 今回-前回	
0m	33.5	33.6	33.7	31.7	33.6	33.7	▲ 0.1	32.8
2m	33.6	33.6	33.7	33.2	33.6	33.7	▲ 0.1	33.1
5m	33.6	33.7	33.7	33.6	33.7	33.7	▲ 0.1	33.6
10m	33.6	33.7	33.7	33.7	33.7	33.8	▲ 0.1	-
B-1m	33.7	33.8	33.7	33.7	33.7	33.7	0.0	33.7

表3 溶存酸素濃度(mg/l)

調査地点	湾奥ブイ	馬の背	ガラク	津波防波堤内側	漁場平均※	前回調査(H25.5.8)		市場前
						漁場平均※	前回との差 今回-前回	
0m	7.90	6.81	7.12	7.35	7.28	7.16	0.12	7.09
2m	7.93	6.45	7.04	7.45	7.14	7.15	▲ 0.01	7.03
5m	5.86	6.09	6.72	7.49	6.22	6.95	▲ 0.73	6.91
10m	5.47	6.01	6.37	6.95	5.95	7.09	▲ 1.14	-
B-1m	4.92	6.59	6.17	6.44	5.89	7.02	▲ 1.13	6.05

※湾奥ブイ・馬の背・ガラクの平均値

表4 水深・透明度(m)

調査地点	湾奥ブイ	馬の背	ガラク	津波防波堤内側	市場前
水深	16.5	23.9	14.8	16.6	10.0
透明度	3.7	4.2	5.5	5.2	3.1
前回透明度	6.4	8.5	9.4	7.2	3.5

表5 プランクトン(cells/ml)

		カレニア・ミキモトイ	カレニア・パピリオナセア	ココロディニウム・ポリクリコイデス	ヘテロシグマ・アカシオ	ディクチオカ・フィビュラ	ケラチウム・フルカ	アカシオ・サンガイネア
湾奥ブイ	0m	0	0	0	1	0	0	0
	2m	1	5	8	0	4	11	8
	5m	46	2	0	0	6	38	8
馬の背	0m	1	2	0	0	2	1	0
	2m	0	2	0	0	1	0	0
	5m	0	6	4	0	2	1	0
ガラク	0m	0	0	0	0	0	0	0
	2m	0	3	0	0	0	0	0
	5m	2	3	20	0	1	2	3
津波防波堤内側	0m	0	0	0	0	0	0	0
	2m	0	0	0	0	0	1	0
	5m	0	2	0	0	1	0	0
市場前	0m	2	2	0	2	0	0	0
	2m	0	6	2	0	0	3	0
	5m	5	20	0	0	0	4	0

漁業被害が想定される細胞密度

- カレニア・ミキモトイ: 数百~数千cells/ml(へい死)
- カレニア・パピリオナセア: 赤潮発生時(へい死)
- ココロディニウム・ポリクリコイデス: 数百~1,000cells/ml(へい死)
- ヘテロシグマ・アカシオ: 10,000~50,000cells/ml(へい死)
- ディクチオカ・フィビュラ: 赤潮発生時(へい死)
- ケラチウム・フルカ: 100cells/ml(餌食いの悪化)